

本文の複製、転載、改変、再配布を禁止します。

## インドネシア質問状原稿(0917)\_大学

### 〈大学への質問〉

#### 【1】知財活動に関する質問

##### I. 体制

1. 大学の概要及び知的財産に関してどのような体制をとられているかご教授ください。
2. どのような活動をされておられますか。
3. 取り扱われている技術分野にはどのような分野がありますか。
4. 知的財産部門として大学の各研究室や教官の研究内容を把握している。
  - 十分把握している。
  - かなり把握している。
  - あまり把握できていない。
  - ほとんど把握できていない。
5. 貴知的財産部門では、シーズの応用や事業化に向けたアイデアなど企業ニーズを踏まえた提案がなされていると思いますか。
  - 十分できている。
  - かなりできている。
  - あまりできていない。
  - ほとんどできていない。
6. 職員は合計何名おられますか。
  - 在職者なし
  - 1～2 名
  - 3～4 名
  - 5～6 名
  - 7～9 名
  - 10 名以上
7. 職員のキャリアは次のどれになりますか。(複数選択可)
  - 大学教員・研究所研究員
  - 製造業研究開発職

本文の複製、転載、改変、再配布を禁止します。

- 製造業技術職
- 製造業営業職
- 流通業・小売業
- 金融機関
- 知財・法務専門職
- その他

8. 今後コーディネーターを増員強化されますか。

- 増員を決めている。
- 増員を検討中である。
- 未定である。
- 増員の予定はない。

## II. 知的財産権

9. 現在まで、特許出願はどの程度しましたか。また、どのような分野で行いましたか。

10. ライセンス可能な特許等の知的財産権はありますか。ある場合どのようなものですか。

11. ライセンスの申込はどのようにすればよいですか。

12. ライセンスに際しては、独占実施権を許諾してもらえますか。

13. 特許技術のライセンス方針は、一般的には次のどれに該当しますか。

- 許諾企業の売上や利益に対しランニングロイヤリティ%を設定している。
- 年間契約など一定期間に一定の使用許諾料を取り決めている。
- 共同研究等の資金提供の見返りとして許諾している。
- 許諾企業の実情に合わせて取り決めている。
- その他

14. 特許技術の実施許諾に対する対価は次のどれを設定されていますか。

- ロイヤリティとして現金
- ロイヤリティとエクイティ取得の両方
- その他

15. 技術移転後の企業の事業化に向けての関与についてお伺いします。

- ライセンス契約後も事業化に向けて積極的に関与している。

本文の複製、転載、改変、再配布を禁止します。

- ライセンス契約後も企業の要請に応じて事業化に向けた相談や支援を行っている。
- ライセンス契約後は、基本的に企業の事業化戦略に関わらない。

16. 技術移転に対する対価の配分について発明者・研究者への配分率は次のどれに該当しますか。

- 20%未満
- 20%以上30%未満
- 30%以上40%未満
- 40%以上50%未満
- 50%以上
- 定率で取り決めはない。

### III. 技術移転

17. 現在まで、技術移転をどの程度行いましたか。また、どのような分野で行いましたか。

18. 技術移転実施許諾先の企業規模の内訳をご教授ください。また、インドネシア法人ですか、外国法人ですか。

大企業(従業員1,000名以上)	件
中企業(従業員100名以上、1,000名以下)	件
小企業(従業員100名以下)	件

19. 直近の事業年度での技術移転実施許諾先の企業規模の内訳をご教授ください。また、インドネシア法人ですか、外国法人ですか。

大企業(従業員1,000名以上)	件
中企業(従業員100名以上、1,000名以下)	件
小企業(従業員100名以下)	件

20. 直近の事業年度での技術移転実施許諾案件の研究機関は下記の区分でどのような内訳ですか。

1年未満	件
1年～3年	件
3年～5年	件
5年以上	件

21. 知財の特許戦略について次に該当するものを選んでください。(複数選択可)

- 基本特許の取得を重視する。

本文の複製、転載、改変、再配布を禁止します。

- 特定技術分野を重点的に出願する。
  - 関連技術分野を幅広く出願する。
  - 特許性があると判断すれば全て出願する。
  - 特許申請は慎重に評価する。
  - 出願したものは基本的に審査請求の手続きを行う。
  - 出願しても状況により審査請求を行わないものもある。
  - 保有特許の評価、見直しを定期的に行っている。
22. 申請や発掘された発明・技術の特許申請するかどうかの評価と決定は、次のどの評価を重視されていますか。
- コンサルタントや弁理士など外部専門職の評価を重視する。
  - 特許流通マネージャーを中心とした評価を重視する。
  - センター長を中心とした評価会議のメンバーの総意を重視する。
23. 技術や発明の特許化に関する啓蒙活動を大学研究者に行っていますか。
- 非常に力を入れて活動している。
  - 定期的には活動している。
  - あまり積極的に活動していない。
  - ほとんど活動していない。
24. 所属大学の対象となる研究者の何%程度が貴知財部門とコンタクト実績がありますか。
- 10%未満
  - 10%以上～30%未満
  - 30%以上50%未満
  - 50%以上70%未満
  - 70%以上
25. 技術移転に関する大学と企業とのシーズとニーズのギャップについて
- ギャップは、非常に大きいと感じる。
  - ギャップは、大きいと感じる。
  - どちらとも言えない。
  - あまりギャップを感じない。
  - ほとんどギャップを感じない。
26. 申請・発掘された技術シーズの事業化評価から特許出願決定までの期間は一般的に次のどれに該当しますか。

本文の複製、転載、改変、再配布を禁止します。

- 二週間未満
- 一ヶ月未満
- 2ヶ月未満
- 3ヶ月未満
- 6ヶ月未満
- 6ヶ月以上
- 一概には言えない。

#### IV. 大学発ベンチャー

27. 大学発ベンチャーの設立からの実績累計件数をお答えください。

件

28. ベンチャー創出に対して貴知的財産部門では積極的な支援体制ができていますか。

- 十分にできている。
- かなりできている。
- あまりできていない。
- ほとんどできていない。

29. 国の資金補助制度などはありますか。

30. 起業支援の一環としてベンチャーキャピタルなど投資家との連携や紹介を行っていますか。

- 積極的に行っている。
- 要請に応じて行っている。
- 行っていない。

#### V. 他機関との連携

31. 他の企業・研究機関・大学との活動(交流会など)は行われていますか。

- 非常に活発に行われている。
- 活発に行われている。
- 活発というほどではないが行われている。
- ほとんど行われていない。

32. 他の大学などとの人的交流は行われていますか。

- 活発に行われている。
- 活発というほどではないが行われている。

本文の複製、転載、改変、再配布を禁止します。

ほとんど行われていない。

33. 技術移転を促進するために重要と思われるものはなにでしょうか。(複数選択可)

- 大学のシーズ発掘と特許化の教員への啓蒙活動の強化
- 特許許諾企業の発掘と事業化へのマーケティング機能の強化
- コーディネーターの増員と能力開発
- インキュベーション機能の充実
- 経営・法務などのコンサルタント機能の強化
- 特許出願や共同研究契約など手続きの迅速化と明確化
- 知財の所有と権利の明確化
- 利益相反ガイドラインの制定

34. 今後の運営方針について重視して行くものをお答えください。(複数選択可)

- 知財の特許化と実施許諾促進によるライセンス収入の拡大
- 共同研究の仲介による企業からのR&D資金の導入拡大
- 知財の信託化による収入の増加
- 起業支援とエクイティの積極的な取得によるキャピタルゲイン
- インキュベーション機能の充実によるベンチャー支援
- コーディネーターの充実・育成によるマッチング機能